



浦野、田上、ハント、宮崎は「SGHアカデミックツアー」に参加しました。3月2日～10日までアメリカに滞在しました。貴重な体験をたくさんさせていただき、多くのことを学ぶことができました！

「SGHアカデミックツアー」3/2～3/10 ニューヨーク研修報告

最初に訪れたメトロポリタン美術館では、5千年以上にわたる世界の美術品を鑑賞しました。古代文明に宗教画、近現代美術などの展示は当時の人々の生活や思想を映しており、芸術を楽しみました。館内には教科書で見たことがある絵画や有名な作品もあり、実際に見ることができ、学習にもつながりそうだと思います。

次にグラウンドゼロを訪れました。グラウンドゼロとは9.11アメリカ同時多発テロの現場となったワールドトレードセンターの跡地です。2つの倒壊したビルの跡はそれぞれのビルと同じ面積の噴水があり、付近の工事現場の囲いには当時の瓦礫撤去の写真がプリントされており、テロの記憶がない私たちにも、多くの命が失われた惨たらしさ、テロを許さない・忘れない思い、平和への願いを伝えました。ナガサキとは違うジャンルの平和祈念施設でしたが、惨事を風化させない点で何か通じるものを感じました。



←メトロポリタン美術館



グラウンドゼロ→

エンパイアーステートビル&国連ツアー

3月4日（月）には国連を訪れました。外国人学生と共に参加した国連ツアーでは、国連を見学しながら国連設立の背景、施設の説明を受け、実際に各国の代表が集まる会議場や、マララさんやオバマ夫妻がスピーチをした講堂などを見学しました。第二次世界大戦中のホロコーストや核兵器の恐ろしさを伝えるコーナーもあり、世界平和を追求し惨事を二度と繰り返さないという思いが伝わりました。ツアーを通して、国連が世界の問題とどのように向き合っているかを学ぶことができました。国連内の展示の中には、実際にPKOの任務に同行した青い旗、青いヘルメットがありました。ボロボロになった旗やヘルメットを見ていかに危険な任務かを想像することができました。



複雑な地下鉄での移動、入場するときを受けた手荷物検査、夜でも冷めやらぬ賑わい、他のツアー客の積極性、超高層ビルからの眺めなどニューヨークでは普段はできない多くのことを体験できました。ニューヨーク研修で身に付けた視点を活用して、グローバルリーダーに必要な力を身につけたいと思います。



「SGHアカデミックツアー」3/2~3/10 ポストン研修報告

① マサチューセッツ工科大学 (MIT)

3月5日(火) MITで、MITの大学院生である吉永宏佑さんにフッ素を利用した窓での太陽光発電の研究についての講義をしていただきました。自分の身近なところで目をつけ、人の役に立つ研究をしながらも興味のあることをとことん追求する吉永さんの姿に、とても刺激を受けました。また、私たちもGSⅡの研究についてひとりひとりプレゼンを行いました。吉永さんからアドバイスをいただき、自らの研究やプレゼンの改善点などを改めて考えるきっかけとなりました。



② ハーバード大学

午後からは、世界一の大学として知られるハーバード大学を訪れ、さまざまな国籍の学生と一緒に、現地学生の英語のキャンパスツアーに参加しました。ハーバード大学に伝わるさまざまな伝説などを聞きながら、校舎を見学しました。大学グッズもたくさんあり、買い物も楽しみました。とても充実した時間を過ごすことができました。



③ ポストン茶会事件博物館

大学見学の後は、市内観光を行いました。歴史の授業で教わったポストン茶会事件の博物館には、当時の船のレプリカなどもありました。予想していたよりもかなり小さな船で、この船で大西洋を横断していたと考えると本当にすごいなと思いました。茶会事件をモチーフにした紅茶もたくさん販売されており、たくさんの観光客でにぎわっていました。



そのほか、公立図書館やクイーンシーマーケット、独立宣言が読まれた建物など、たくさんの観光地を訪れることができました。ひとつひとつの場所でポストンの古い歴史を感じることができ、とても良い経験となりました。

「SGHアカデミックツアー」ウィスコンシン大学研修報告①

・3月6日

ポストンからアメリカンエアラインでシカゴへ向かい、およそ4時間の車での移動を経て、ウィスコンシン大学オッシュコシュ校に到着しました。ウィスコンシン州は、アメリカ中西部に位置し、ポストンからさらに一時間の時差があります。一面の銀世界で、私たちは終始大興奮でした。ウィスコンシンでは、グルーエンハーゲンという学生寮で3泊します。夕方には、留学生の皆さんとピザを楽しみながら、ウェルカムパーティーを開いてもらい、だんだんと打ち解けることができました。

「SGHアカデミックツアー」ウィスコンシン大学研修報告②



・3月7日

日本語を学ぶ学生の講義に参加し、私たちは江戸時代や参勤交代について英語で発表をしました。互いに上手く話せないため、気負うことなく気楽に会話に挑戦でき、良い経験になりました。自分たちが知らないところで、日本に興味をもって日本語や日本文化を学んでいる学生が多くいることをとても嬉しく思いました。夕食にはメキシコ料理店で、自分でメニューを読んで注文したり、チップを用意したりと奮闘しました。「お腹一杯」はアメリカンジョークで“I have a food baby.”と言います。食後は、アメリカで二回目のプレゼンテーションを行いました。前回の反省と毎晩の練習の成果が出て、全員見違えるほど上達し、落ち着いて話すことができました。学生と先生方から専門的なフィードバックをいただきました。



・3月8日

韓国やサウジアラビア、中国出身の留学生や先生を交えて、すごろくなどを使った交流を行いました。母の日や誕生日の祝い方について各国の在り方を話し合い、異文化理解の楽しさを感じました。生物分野を専攻する学生に三回目のプレゼンテーションを行いました。発表は経験を積むたびに上手くなり、原稿なしで一人十分間、緊張せずに聴衆を見て話せるようになりました。その後、レポートや論文を学生に添削してもらい、ビリヤードをしたりおしゃべりしたりと、和気あいあいとした自由で楽しい時間を過ごしました。夕食はヒスパニックのパーティーに参加し、手作りのメロンパンやアボカドホットドッグを堪能しました。そこでは、すべての人が親切で心が温かく、人に興味があり、誰とでもすぐに友達になれました。次に、タイタナイトという大学のパーティーに行きました。英語で話すことに抵抗がなくなり、本当に仲良くなれたところでの別れは寂しすぎました。日本への留学を予定している学生も多いので、これからもSNSでやり取りを続けていきたいです。



全体を通して

今回のアカデミックツアーでは、他国の文化、国際平和、学術的研究の面白さ、あるいはプレゼンテーションの力など、多くのことを学び吸収しました。同じアメリカとは言え、それぞれの訪問先の外観や雰囲気は全く異なり様々な面を感じることができました。グラウンドゼロや国連訪問を通して平和を学び、メトロポリタン美術館では大昔から現代にいたるまでの多くの芸術作品に触れ、MIT やハーバード大学では充実した大学生活に憧れを抱き、ウィスコンシンでは世界中の人とコミュニケーションをとり…などなど、挙げればきりがありません。そして今回学んだすべてのことは、今後大いに生かされるでしょう。

私たちは今回のツアーで10日間にもわたって滞在することができました。しかし、アメリカはあくまで世界の一部であり、世界中のことを学んだ訳ではありません。グローバルな視野をもった、世界で渡り合えるような人材になるために、私たちは今後も世界中の多くのことに興味・関心を持ち続けていきます！